

飯島賢二の『恐縮ですが・・・一言コラム』

第 194 回 馬鹿な政治家を選ぶのは、馬鹿な有権者？～選挙の前に

2007.3.25

今年は知事や議会議員の統一地方選と参議院議員、正に選挙の年である。小生、少し年齢を重ねたせいか、そこそこの政治家と会う機会が多くなった。中には大変博学で、自分なりの明確な政策と信念を持って、本気で国や地域のために誠心誠意を尽くしている...そんな魅力的タイプの政治家に遭遇する場面があるが、正直言って、実に^{まわ}稀である。

どうしてこんなやつが、政治家のバッジつけているのか...日本の有権者たるものは、目先に対してケチなくせに、税金の無駄遣いとは何ぞやって、考えたことないのか!! ついそんな「悪態^{あくたい}」を言いたくなる。馬鹿な政治屋を選ぶほど税金の無駄遣いはない事、肝に銘じるべきである。彼らの既得権たる政治家特権を考えると、地方といえども一人 1,000 ~ 3,000 万円、国レベルで下手すると 1 億円もの税金負担、あるいは徴収すべき税金の機会損失がある。アホな政治家がいればいるほど、無駄な税金が勝手に支払われていくことになる。

「勝手」とは言ったが、制度的には「勝手」を許さないシステムになっている。各種規制する法令、業務や会計を監査するシステム、色々あるが十分機能していないのが現状か。しかしながら、実はその根幹の仕組みが、民主的に行われる「選挙」という事になる。

馬鹿な政治屋は本来、政治家になれないはずである。馬鹿な政治屋に騙される、馬鹿な有権者がいるから、この奇妙な現実が成り立っている。この相関関係から言えば、民主主義なんて存立するはずがない。

文字通り「民」が主体の政治、社会、経済構造は、根本的前提条件がある。それは「民」が自身の義務を果たし、「民」が主体になって権利を行使するという、極めて当たり前の論理である。たとえば選挙における有権者としての義務、果たしているといえるだろうか？

情勢を冷静に見極め、将来に対する自らの主張を持ち、その目と頭で候補者を見定めていく。愛縁、血縁、地縁も、いかにも日本的でいいかもしれない。しかし、普通に馬鹿は、どんな縁があろうとも、選んではいけない。それは大変な血税を納める納税者に対しての、背信行為である。

そして選んだ以上は、チェックを怠らないこと。4 年に一遍の「お祭り」にしてはいけない。選んだ政治家が、期待に答えず想定外だったとすれば、叱咤激励、正しく導き鍛え直し、育成していくまでが有権者の義務であると思っている。

その義務を踏まえたくうえで、最大の権利行使が「選挙」である。棄権は一つ意思表示という人がいるが、決してそうは思わない。NO という意思表示は他にある。棄権は逃げ、姑息な手段だと思っている。...是非今回は、こんな熱い一票を投じてみよう!!